



「声」の欄・投稿規定

- ★「声」の欄は読者の皆さんのお考えを、直接誌面に反映させるためのページです。皮膚病の診療に関する日ごろのご意見、新しいアイデア、ご提言などをお気軽にお寄せください。とくに日夜第一線で診療に活躍しておられる先生方からのご投稿を切望します。
- ★「声」の欄には、また皮膚病に関する“質疑応答”を取り上げます。お寄せいただいたご質問は、その方面の権威に依頼して適切な回答を用意し、誌上で発表いたします。とくに回答者を指名されても結構です。
- ★字数は一般のご投稿は1,200字以内、質問は600字以内を原則とします。
- ★ご投稿は郵送のほか、FAX（番号：03-3984-1003）とE-mail（アドレス：hs1979@intage.com）にても受け付けております。
- ★原稿には住所・氏名を明記していただきます。

ハチアレルギーの謎

2023年は猛暑だったせいか、ハチ刺されが多かったように思う。ハチといえば以前、営林署職員のハチアレルギーを検査したことがあり、スズメバチIgEについてはほぼ全員がclass 1～2を呈し「なるほど」と思った覚えがある。さて今回希望がありハチアレルギーを調べたところ、なんと説明がつかない結果であった。どう考えたらよいのだろうか。

【患者1】30歳代男性。屋外や山間部での作業が多く、毎年ハチ刺されで当院を受診している（一昨年と昨年はスズメバチ、今年はアシナガバチ）。

IgE検査結果：スズメバチ、アシナガバチ、ミツバチいずれもclass 0。

【患者2】20歳代女性。山間部の職場に配属されることになり、念のため調べたいと受診。いままではハチに刺された記憶はないとのこと。

IgE検査結果：スズメバチ、アシナガバチ、ミツバチいずれもclass 3。エピペン携帯を薦めた。

今回の検査結果は、いわば「ハチ刺されの常連」ともいえる患者1はclass 0であり、いままでは刺された覚えがない患者2が3種のハチでclass 3であった。患者1はいわゆる「抗体ができにくいので刺されても平気な人」なのかもしれないが、では患者2はどう解釈すればよいのだろうか。

か？ α-Galアレルギーの獣肉とダニのように、何かほかの物と共通する原因抗原でもあるのだろうか？

石川 博康
(八戸市・湊高台皮膚科)

【コメント】

1回目のハチ刺傷で、全例感作（ハチ毒特異的IgE抗体陽性）されるわけではありません。ミツバチ刺傷を例にあげますと、1回目の刺傷で14%、2回目の刺傷で31%の人がミツバチ毒に感作されることが報告されています。このため患者1では、測定時においてハチ（スズメバチ、アシナガバチ、ミツバチ）毒には感作されていないことが予想されます。

アレルギーの発症原因であるアレルゲンコンポーネントの多くは蛋白質で、その中でも糖鎖が結合しているものが多くあります。アレルゲンコンポーネントそのものではなく、結合している糖鎖に対し特異的IgE抗体が産生され、検査で使用するアレルゲン（粗抽出抗原など）と反応し、臨床的偽陽性と判定されることがあります。このような現象をおこす原因として、交差反応性炭水化物決定因子（cross-reactive carbohydrate determinant：CCD）の影響が考えられています。野菜、果実、花粉、ハチ毒間で植物由来のCCDによる共通抗原性が示唆されており、ハチ刺傷歴がなくても、*in vitro*の特異的IgE抗体検査において、臨床的偽陽性の原因として知られています。この

ため、患者2ではハチ刺傷歴がないにもかかわらず、ハチ（スズメバチ、アシナガバチ、ミツバチ）毒特異的IgE抗体が陽性の理由として、CCDに感作されていることが予想され、アレルギーを発症する主要アレルギーへの感作の可能性は低く、臨床的偽陽性の可能性が考えられます。一般的に、CCD特異的IgE抗体陽性の方が植物由来のCCDを曝露しても、アレルギー発症する可能性は低いと考えられています。

一方、動物由来のCCDとして、マダニ毒中の α -Galが知られています。マダニ刺傷により α -Galに感作され、 α -Galを含む獣肉や抗がん剤のセツキシマブなどの曝露で、重篤なアナフィラキシーを発症する場合があります。CCDに対する特異的IgE抗体を有する人は少ないと考えられていますが、多数のアレル

ゲン特異的IgE抗体が陽性の場合、CCDの影響を考慮する必要があります。イムノキャップでは、研究用としてCCD（bromelin, MUXF3およびhorse radish peroxidase）特異的IgE抗体を測定することが可能です。

これらのことから、ハチ毒特異的IgE抗体の結果はあくまでも参考にしていただき、ハチ刺傷経験やアナフィラキシー発症歴を基に、エピペンの処方の必要性について、検討することが重要かと考えます。

平田 博国

(獨協医科大学埼玉医療センター
呼吸器・アレルギー内科准教授)